

令和2年度 第2学期始業式 式辞

はじめに

皆さん、おはようございます。新型コロナウイルス感染拡大の収束は、予想されたこととは言え、長く厳しく険しい道のりとなっています。例年になく短い夏休みを終え、今日から2学期が始まります。この2学期には、清新高校との合同で取り組む学校祭そして奈具丘祭が予定されています。

例年どおりには進めない部分も沢山あり、皆さんには不満足・不自由な思いにさせてしまうこととなります。しかし、自らの境遇を嘆くのではなく、今の、現在の状況の中で、ベストを尽くそうとする3年生の皆さんの心意気を本当に頼もしく思います。

戦後75年

さて、本日は、敢えて、新型コロナウイルスに関する話ではなく、「歴史と繋がる」ということについて話します。今年2020年、この8月15日は、太平洋戦争・第二次世界大戦が終結した1945年から数えると、一つの区切りとなる75年目、75回目の終戦記念日でありました。5年前の2015年は、ちょうど70年という大きな区切りの年であったために、かなり社会的にも注目を集めました。

しかしながら、戦争で家族が犠牲となった方々にとっては、70年、75年という区切りは意味はなく、悲しみが癒えることは決してありません。私たちは、終戦の日である8月15日を迎える夏、この時期には、改めて、「戦争の悲惨さ」、そして「平和の尊さ」を繰り返し考える機会にせねばならないと思います。

丹後では

この丹後の地は、あまり戦争とは関係がなかったように思うかも知れませんが、戦争終結の半月前に大宮の河辺にあった海軍の飛行場が、アメリカ軍の空襲を受け2名の兵士が爆弾の破片を受け死亡、住人数名が負傷されました。この時、宮津では15名の方々が空襲の犠牲となり、伊根に停泊していた軍艦は攻撃を受け100数十名が戦死されています。また、舞鶴では、同じこの時、空襲で約180名の方が犠牲となっております。そして、これらの犠牲者の中には、皆さんと同年代の方が19名もおられました。

繋がる

ここで皆さんに、「歴史・過去」としっかりと繋がっている高校生がつくった詩（し・うた）を紹介します。住民を巻き込み日米で併せて20万人を超える犠牲者を出した沖縄戦が終結した6月23日に開かれた75年目の戦没者追悼式で、沖縄県立首里高等学校3年生の高良^{たから}さんが朗読した「平和の詩（し・うた）」の一部です。

私はあの時を想像する

あなたが声を上げて泣かなかったあの時
あなたの母はあなたを殺さずに済んだ
あなたは生き延びた
あなたが少女に白旗を持たせたあの時
彼女は真っ直ぐに旗を揚げた
少女は助かった

ありがとう

あなたがあの時
あの人を助けてくれたおかげで
私は今 ここにいる

あなたがあの時
前を見続けてくれたおかげで
この島は今 ここにある

あなたがあの時
勇気を振り絞って語ってくれたおかげで
私たちは 知った

永遠に解かれることのない戦争の呪いを
決して失われてはいけない平和の尊さを

ありがとう

未来を生きるために

私が敢えて説明や私の思いを加えなくても、皆さんなりに、75年前の「過去」そして「歴史」と少しは繋がってくれたものと思います。「『過去』に目を閉ざすものは、『現在』を見ることができない」という有名な言葉があります。

よりよく「現在」そして「未来」を生きるために、終戦記念日を迎える熱い夏には繰り返し、「過去」と、そして「歴史」と、皆さんなりに繋がるものにしてもらえたらと願います。

皆さんへのエール

最初にも言いましたが、現実として今年度は、例年どおり「いかないこと」、「できないこと」が沢山あります。だからこそ教職員も常に皆さんの側において、その都度、「新しい生活様式」を踏まえた感染予防に留意し、最善の選択ができるよう努力をいたします。皆さんの創造力、独自性、協調性で、この学期は長い歴史と伝統を持つ学校祭や奈具丘祭がどんなページになるのかを、私も楽しませてもらおうと思います。

「旅は出発するまでが、最も楽しい」という言葉がありますが、祭りも同じです。「祭りは始まるまでが、最も楽しい」。生まれれば、終わりに向かって、エンディングに向かって、一直線で進んでいくだけになります。今を、精一杯、楽しんでください。以上でございます。

令和2年8月20日
校長 長島 雅彦